

1.3 箕面市の現況

(1) 地勢

○ 緑豊かな北摂丘陵を背景とし、良好な郊外居住環境を保持した大阪都市圏の住宅都市として発展してきた。

- ・ 本市は、京阪神3極都市圏のほぼ中央となる大阪府の北西部に位置しており、東は茨木市、西は池田市、南は豊中市と吹田市、北は豊能町と兵庫県川西市とに隣接している。
- ・ 北緯 34° 49'、東経 135° 28' に位置し、東西約 7.1 km、南北約 11.7 km にわたる面積 4,784ha の市域をもつ。本市の全域が都市計画区域である。
- ・ 大阪の都心からは約 20 km 圏内の距離であり、御堂筋線(国道 423 号)、京都神戸線をはじめとした道路網や阪急箕面線、北大阪急行線、阪急千里線とのバスネットワークの充実により、大阪都心近郊の好立地にある。
- ・ 市域周辺には、新大阪駅、大阪国際空港、名神高速道路、中国自動車道、阪神高速道路があり、優れた広域交通条件を備えている。
- ・ 市域は、中央山間部をはさみ北側の北部地域と南側の市街地域(西部、中部、東部)に区分できる。

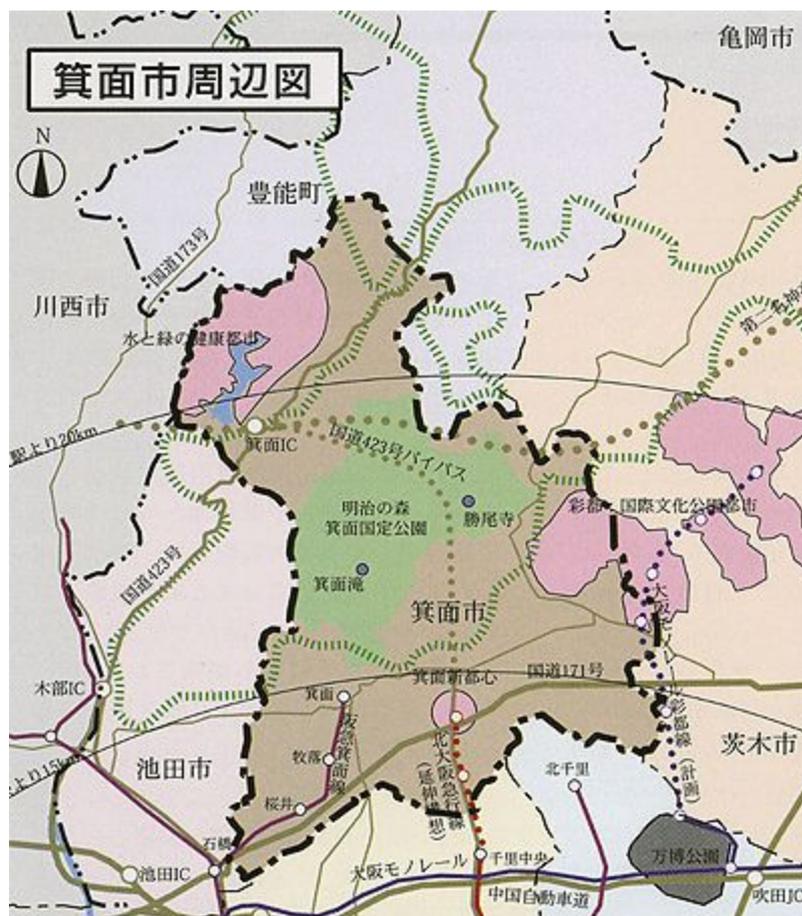


図-1.7 箕面市周辺図

出典:第四次箕面市総合計画(平成13年)より作成

(2) 人口

a) 総人口と世帯数

○ 人口は、125 千人、世帯数は、5 万世帯である。

- ・ 本市の人口は、昭和 30 年の国勢調査（市制施行前年）によると 26,564 人で、自然増を中心に比較的ゆるやかな伸びを示していた。
- ・ 社会増による人口増加のテンポが早まったのは昭和 40 年代からで、宅地開発が進むとともに大幅な増加傾向を示していたが、昭和 60 年代からはその伸びも沈静化している。
- ・ 平成 2 年の人口は 119,132 人で、市制施行以来 30 年余で 4 倍以上に増加している。
- ・ 人口の伸びに比べ世帯数の伸びが高く、核家族化が進行しているといえる。
- ・ 地域別では、西部地域へ人口が最も集中しているが、増加の伸びは沈静化しつつある。
- ・ 比較的中部・東部地域の人口増加の伸びは高く、今後も丘陵部や空間地での宅地開発による人口の増加が予想される。
- ・ 北部地域の人口は微減傾向にある。



図-1.8 地域の区分

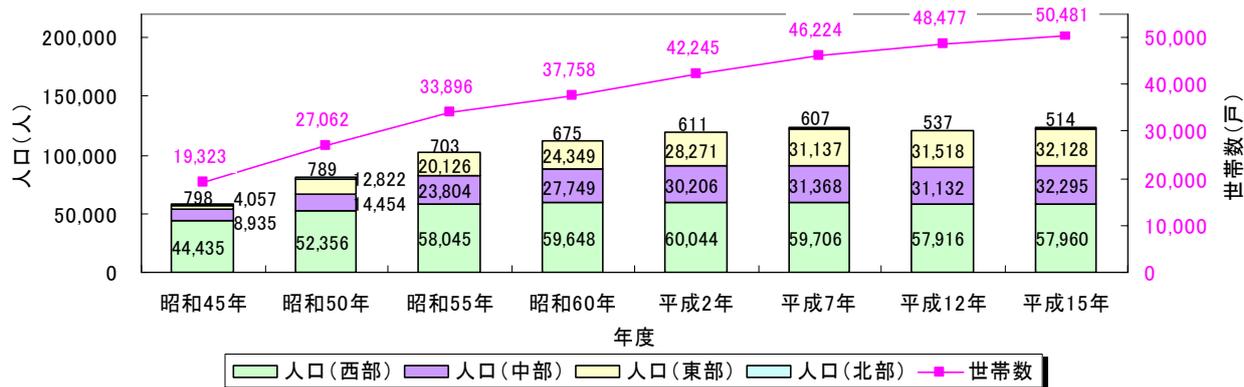


図-1.9 人口と世帯数の推移

表-1.5 地域別人口の推移

地域	昭和 45 年	昭和 50 年	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 15 年
西部地域	44,435 (76.3)	52,356 (65.1)	58,045 (56.5)	59,648 (53.1)	60,044 (50.4)	59,706 (48.6)	57,916 (47.8)	57,960 (47.2)
中部地域	8,935 (15.3)	14,454 (18.0)	23,804 (23.2)	27,749 (24.7)	30,206 (25.4)	31,368 (25.5)	31,132 (25.7)	32,295 (26.3)
東部地域	4,057 (7.0)	12,822 (15.9)	20,126 (19.6)	24,349 (21.7)	28,271 (23.7)	31,137 (25.4)	31,518 (26.0)	32,128 (26.1)
北部地域	798 (1.4)	789 (1.0)	703 (0.7)	675 (0.6)	611 (0.5)	607 (0.5)	537 (0.4)	514 (0.4)
市合計	58,225 (100.0)	80,421 (100.0)	102,678 (100.0)	112,421 (100.0)	119,132 (100.0)	122,818 (100.0)	121,103 (100.0)	122,897 (100.0)

()内数値は構成比%

出典:住民基本台帳より作成

b) 年齢構成

- 北部地域、西部地域の老年人口割合が高い。
- 老年人口は16%と高齢社会を迎え、年少人口は14%と減少傾向にある。

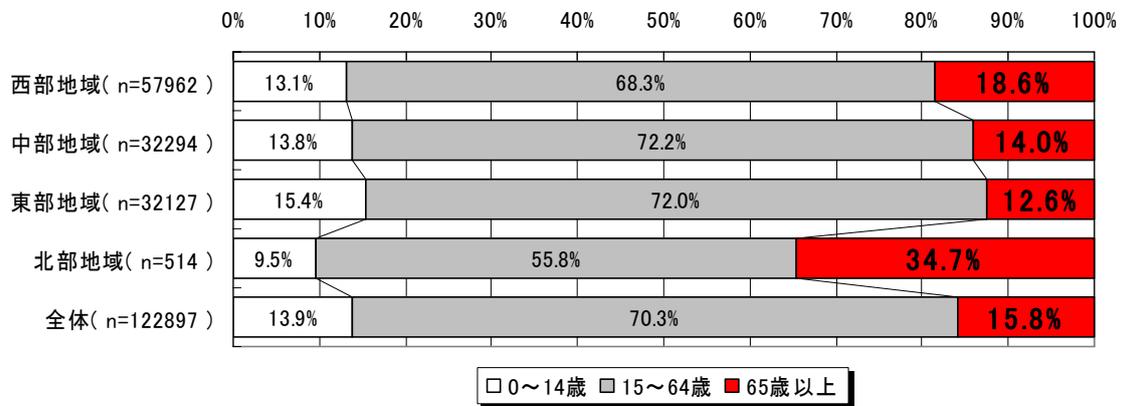


図-1.10 現況の年齢構成

出典：市勢年鑑より作成 住民基本台帳による(平成16年4月1日現在)

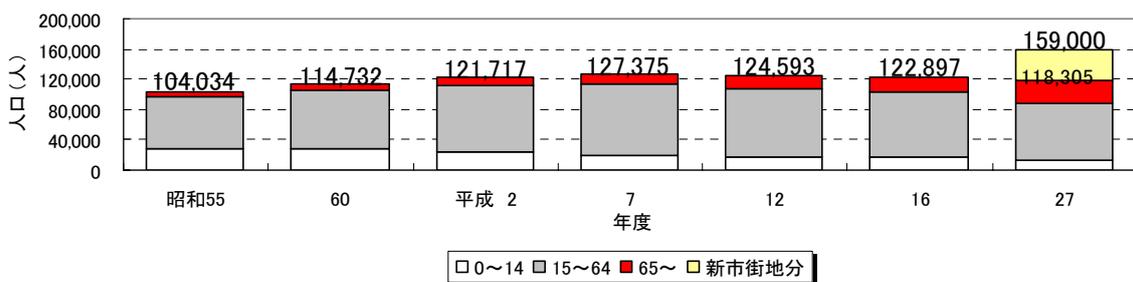


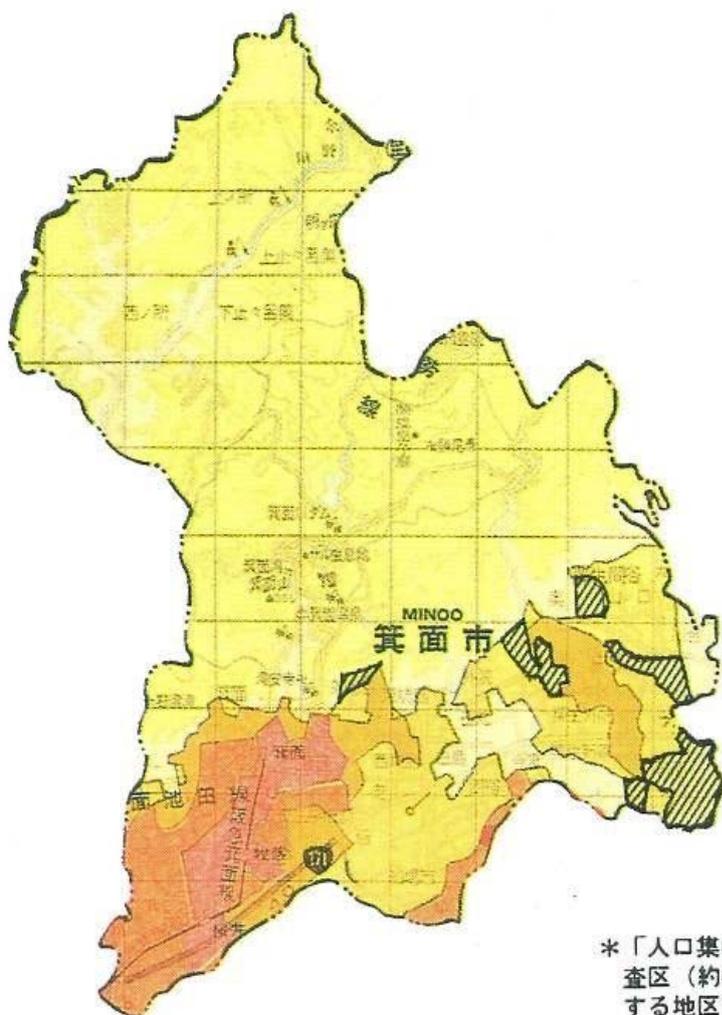
図-1.11 年齢構成の推移

- 出典：
- ①実績値は、平成16年度版 市勢年鑑より作成
 - ②H27年は、第四次総合計画の推計人口
 - ③そのうち、新市街地を除く人口は国立社会保障・人口問題研究所、日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月)

(3) 市街化の傾向

○ 阪急電鉄を中心とした西部地域から、御堂筋線・京都神戸線の利便性が高い中部地域、東部地域へと市街化が展開している。

- ・ 本市の市街化は、明治43年の箕面有馬電気軌道の開通にはじまる。これ以降昭和初期にかけて、箕面、牧落、桜井の各駅を中心に、沿線地域で区画の大きい良好な住宅地の造成が進んできた。
- ・ 本市の市制施行時の昭和31年は、まだ就業者の4分の1が農業従事者（昭和30年国勢調査）であり、田園的な住宅都市を形成していた。現在のような市街化の進展がみられるようになったのは、昭和40年代以降の千里丘陵の開発や万国博覧会に伴う交通施設の整備がなされて以降からのことである。
- ・ 特に、西部地域よりまちづくりが遅れていた中部・東部地域において、道路整備による利便性を生かした宅地開発が進められるようになった。
- ・ 現在は、粟生間谷地区や止々呂美地区において大規模開発計画があるほか、中部・東部地域の空間地に対する開発圧が高まるものと考えられる。
- ・ このような市街化動向の中で、これまで本市では都市計画法による市街化区域及び市街化調整区域の区域区分（線引き）や開発の規制・誘導などの諸制度の総合的運用と都市基盤施設の重点的な整備に努め、乱開発を防ぎ、住宅地を中心とした市街地の形成に努めてきた。



DID区域（人口集中地区）の状況

年 度	区域面積	区域内人口
昭和 35 年	300 ha	19,038 人
40	320 ha	26,697 人
45	490 ha	41,645 人
50	730 ha	65,190 人
55	1,180 ha	92,218 人
60	1,300 ha	109,589 人
平成 2 年	1,390 ha	117,879 人
7	1,400 ha	124,024 人
12	1,390 ha	120,762 人

各年10月1日現在
出典：総務部統計担当
(平成12年国勢調査)

- 昭和35年の人口集中地区
- 昭和36年～40年に増加した地区
- 昭和41年～45年に増加した地区
- 昭和46年～50年に増加した地区
- 昭和51年～55年に増加した地区
- 昭和56年～60年に増加した地区
- ▨ 昭和60年～平成2年に増加した地区

*「人口集中地区」とは、国勢調査による人口密度の高い調査区（約4,000人/km²以上）が隣接して5,000人以上を構成する地区をいいます。

図-1.12 人口集中地区の変遷

出典：箕面市都市計画マスタープラン(平成8年)、平成12年国勢調査より作成

(4) 土地利用の状況

○ 中央山間地域は森林、住宅地は西部地域、中部地域、東部地域に集積している。

- ・ 本市の全域（4,784ha）が都市計画区域であり、昭和45年に市街化区域及び市街化調整区域を決定し、現在、市街化区域が1,985haで、市街化調整区域は2,799haになっている。
- ・ これを土地利用の面でみると、都市的な土地利用としては、「住宅地 609ha」、「道路 286ha」、「工業用地 7ha」、そして「公共施設を含むその他の宅地 209ha」、自然的な土地利用としては「農用地 237ha」、「森林 2,863ha」、「水面・河川・水路を含むその他 573ha（水面・河川・水路 117+その他 456）」となっている。
- ・ また、人口集中地区面積（DID）は、1,390ha（平成2年国勢調査）で市街化区域の71.0%となっており年々増加の一途をたどっている。
- ・ 一方、用途地域別の指定状況としては、第一種低層住居専用及び第二種低層住居専用地域が32.7%、第一種中高層住居専用及び第二種中高層住居専用地域が46.1%であり、第一種住居、第二種住居地域及び準住居地域15.7%が主として主要幹線沿いに指定され、これら住居系が94.5%を占めている。
- ・ 残りの5.5%が商業系で、その内、商業地域3.8%はコム・アート・ヒルと箕面駅前地区であり、阪急箕面線の各駅周辺、水と緑の健康都市のセンター地区、府道豊中亀岡線沿い及び小野原地区には近隣商業地域1.7%が指定されている。
- ・ また、北摂各市の中でも住居系の指定率が最も高く、本市のみが工業系の用途指定がなされていない。

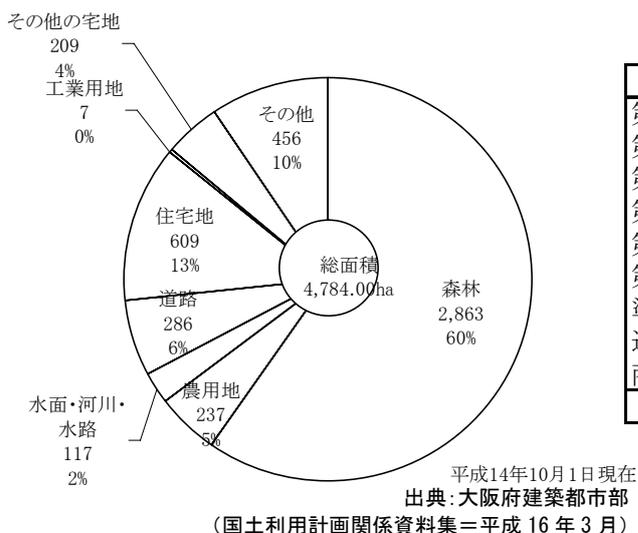


表-1.6 用途指定地域

用途地域	面積	構成比
第一種低層住居専用地域	646 ha	32.5%
第二種低層住居専用地域	4 ha	0.2%
第一種中高層住居専用地域	415 ha	20.9%
第二種中高層住居専用地域	501 ha	25.2%
第一種住居地域	39 ha	2.0%
第二種住居地域	206 ha	10.4%
準住居地域	65 ha	3.3%
近隣商業地域	34 ha	1.7%
商業地域	75 ha	3.8%
合計	1,985 ha	100.0%

出典:大阪府建築都市部
(国土利用計画関係資料集=平成16年3月)

図-1.13 土地利用の現況

(5) 産業構造

a) 就業者人口と従業者人口

- 箕面市の就業者は、市外へ就業する割合が64%と高い。
- 箕面市の従業者は、市内・市外の割合がほぼ同じである。

表-1.7 就業者人口と従業者人口

	就業者人口	従業者人口
市内	20,911(36%)	20,911(50%)
市外	37,234(64%)	21,255(50%)
合計	58,145	42,166

就業者人口：箕面市に居住し、
就業している人数
従業者人口：箕面市内で従業し
ている人数

出典：平成12年国勢調査より作成

b) 産業別現況

- 3次産業従事者が約90%を占め、高い割合である。
- 工業は、事業所数、従業員数ともに、減少傾向にある。

1) 産業分類別事業所・従業者

- ・ 産業分類別では事業所数、従業者人口とも第3次産業の割合が極めて高くなっており、工業系用途地域を持たない本市の特徴が見られる。

表-1.8 産業別事業所数・従業者人口

	1次産業		2次産業		3次産業	
	事業所数	従業人口	事業所数	従業人口	事業所数	従業人口
平成13年	4 0.11%	59 0.17%	359 9.99%	4770 13.57%	3230 89.90%	30325 86.26%

出典：平成13年事業所・企業統計調査より作成

2) 工業現況

- ・ 事業所数、従業員数ともに、減少傾向にある。

表-1.9 工業の推移

	昭和63年	平成4年	平成11年	平成14年
事業所数	68	53	56	45
従業者数(人)	1,578	1,574	1,406	1,116
工業製造品出荷額(百万円)	26,970	32,900	27,708	19,855
従業者当たり(百万円/人)	17.1	18.0	19.7	17.8

出典：総務部統計担当「工業統計調査」より作成

3) 商業現況

- ・ 卸売業は昭和63年以降から店舗数、販売額の増加傾向が見られる。大阪府の平均と比べると店舗当たりの従業員数は多く、比較的大規模な店舗が多いと考えられる。中部地域のコム・アート・ヒルでの大規模店舗の集積が影響していると考えられる。
- ・ しかし人口当たり販売額が少なく、本市全体での卸売業規模は小さいと言える。
- ・ 小売業は店舗数の減少が見られるものの、販売額、店舗面積は増加傾向にある。特に販売額の伸びは大きい。しかし、人口当たりの販売額はまだ大阪府の平均より低く、小売店舗の不足傾向がうかがえる。
- ・ 小売店舗における面積のシェアから、第一種大型店舗の充足度は低いといえる。

出典：第四次箕面市総合計画(平成13年)より作成

(6) 環境

a) 騒音

○ 騒音について国道 171 号萱野 2 丁目の夜間以外は、要請限度値を満足している。

表-1.10 自動車騒音調査結果一覧表- (要請限度との比較)

No.	測定 路線	測定 地点	区分	要請 限度値 dB(A)	測定値 (dB [A])				評価	交通量平均値 (台/10分間)			平成14年度測定値 (dB [A])			
										大型車 混入率 (%)	二輪車 混入率 (%)					
					L _{eq}	L ₅₀	L ₅	L ₉₅				L _{eq}	L ₅₀	L ₅	L ₉₅	
1	市道 中央線	市役所 南側	昼間	75	67	64	72	54	○	188	4.3	10.6	67	64	72	54
			夜間	70	64	53	70	46	○	48	2.1	14.6	63	51	69	43
2	国道 171号	萱野 2丁目	昼間	75	73	71	78	60	○	423	8.0	8.3	74	71	78	60
			夜間	70	72	63	78	47	×	135	8.1	9.6	71	64	77	48
3	国道 171号	粟生新家 3丁目	昼間	75	74	72	78	58	○	393	12.5	7.6	75	73	79	57
			夜間	70	70	62	76	47	○	118	12.7	8.5	72	65	78	47
4	市道箕面 今宮線	箕面 3丁目	昼間	70	67	61	72	44	○	110	4.5	13.6	68	61	74	45
			夜間	65	62	41	67	33	○	25	0.0	12.0	62	44	67	34
5	府道豊中 亀岡線	西小路 3丁目	昼間	75	67	63	72	52	○	167	4.2	9.6	67	63	72	52
			夜間	70	63	49	69	40	○	37	2.7	13.5	63	48	70	39
6	府道箕面 池田線	粟生 派出所前	昼間	75	68	61	74	50	○	129	8.5	10.9	68	60	74	50
			夜間	70	60	42	65	35	○	20	5.0	20.0	61	44	65	34
7	府道箕面 池田線	坊島 4丁目	昼間	75	67	61	72	52	○	299	5.7	5.7	70	67	75	57
			夜間	70	63	52	68	46	○	83	2.4	7.2	66	56	71	46
8	府道箕面 池田線	永寿園前	昼間	75	68	65	72	55	○	192	7.8	7.8	68	65	73	53
			夜間	70	62	50	69	42	○	46	2.2	10.9	64	50	69	41
9	市道小野 原中村線	豊川 支所前	昼間	70	66	58	73	45	○	73	9.6	21.9	67	59	73	45
			夜間	65	62	44	66	37	○	19	5.3	36.8	62	44	66	34
10	府道茨木 能勢線	粟生間谷 東5丁目	昼間	75	69	65	74	50	○	134	8.2	13.4	69	64	74	49
			夜間	70	62	46	68	43	○	21	4.8	23.8	63	45	66	40

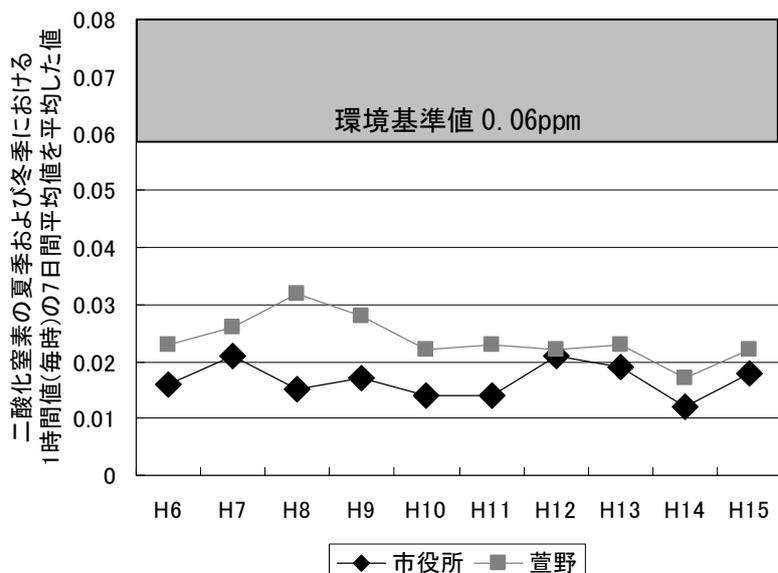
出典:市勢年鑑 平成15年11月26日・11月27日測定 要請限度値は、Leq値との比較

b) 大気

○ 観測地点全てにおいて、NO₂、CO、SPMの環境基準を満足している。

1) 二酸化窒素濃度 (NO₂)

- ・ 0.04ppm以下と十分に環境基準を満足している。
- ・ 市役所は、これまで安定して低い値であり、萱野は改善傾向にある。

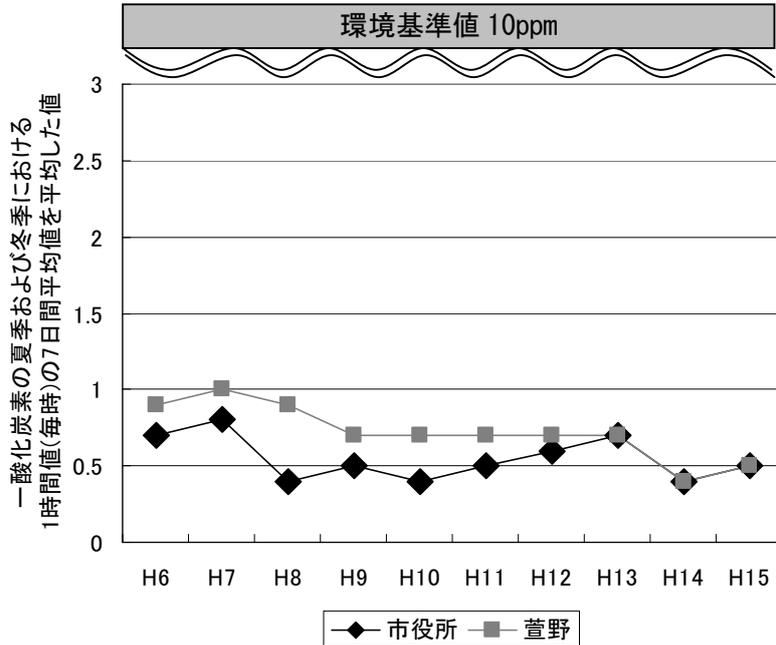


注: 二酸化窒素(NO₂)の環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。

図-1.15 二酸化窒素濃度の平均値の推移

2) 一酸化炭素濃度(CO)

- ・ 1.0ppm 以下と十分に環境基準を満足している。



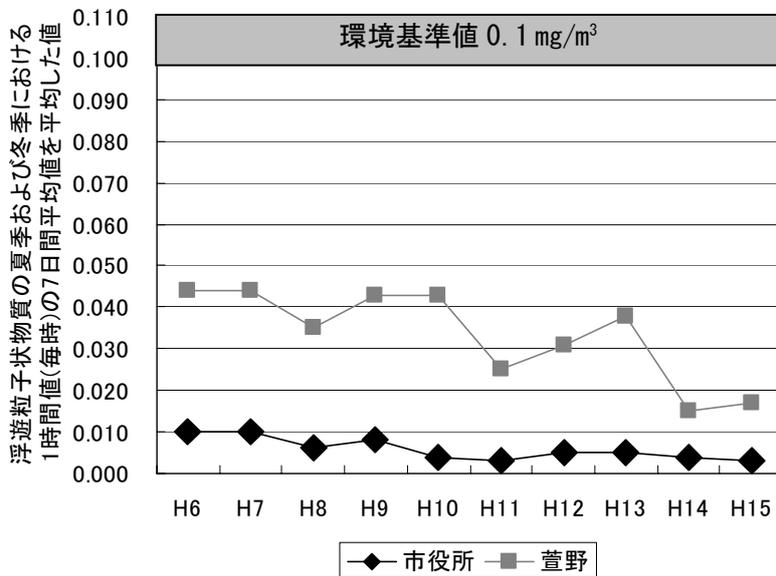
注：一酸化炭素(CO)の環境基準は、1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。

図-1.16 一酸化炭素濃度の平均値の推移

出典：平成16年度版 市勢年鑑 XⅢ環境より作成

3) 浮遊粒子状物質(SPM)

- ・ 0.05mg/m³以下であり、十分に環境基準を満足している。



注：浮遊粒子状物質(SPM)の環境基準は、1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

図-1.17 浮遊粒子状物質濃度の平均値の推移

出典：平成16年度版 市勢年鑑 XⅢ環境より作成

(7) 犯罪・交通事故

1) 犯罪件数

- 平成 15 年の犯罪件数は、平成元年のほぼ倍である。
- 平成 13 年に 500 件近く増加し、その後、微減傾向にある。

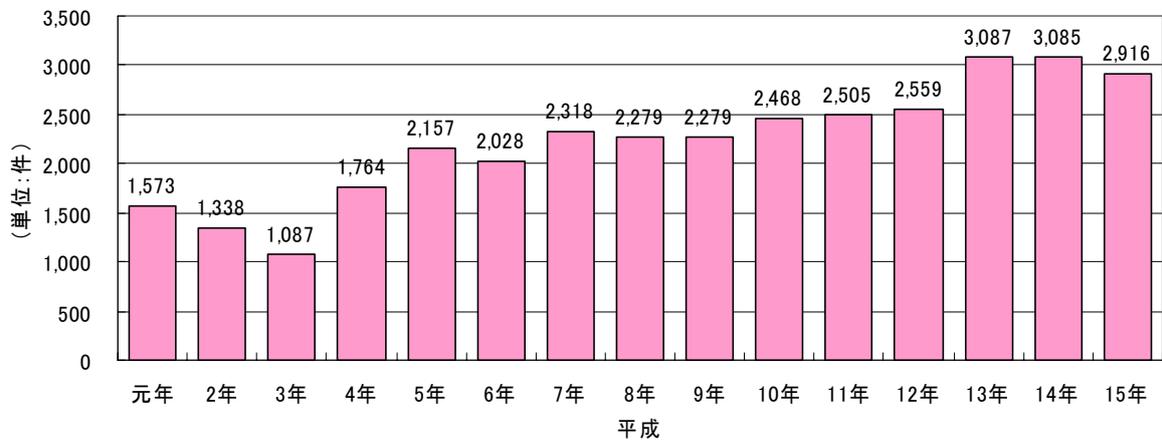


図-1.18 刑法犯罪発生件数の推移

出典:平成 16 年度版 市勢年鑑 XIX犯罪・交通より作成

2) 交通事故発生件数

- 平成 7 年から平成 10 年にかけて、交通事故発生件数は減少していたが、平成 10 年以降、増加している。

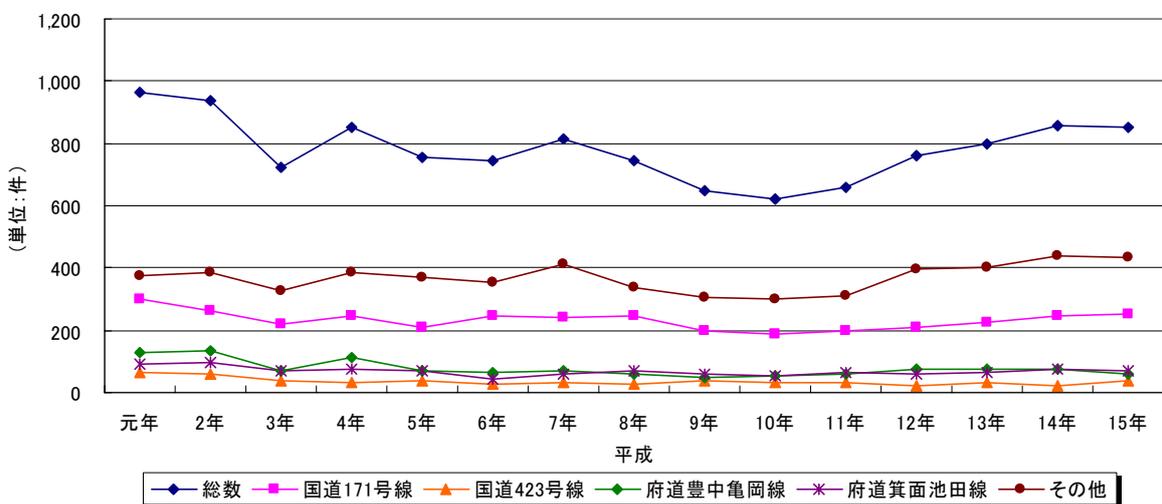


図-1.19 交通事故発生件数の推移

出典:平成 16 年度版 市勢年鑑 XIX犯罪・交通より作成